

キャンプに参加した子ども達の向社会的行動に関する研究

上田 将大 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 林 綾子

キーワード：キャンプ, 向社会的行動, 子ども

1. 序論

近年, 子ども達を取り巻く環境の変化によって, 社会性, 思いやりなどの低下が指摘されており, いじめや引きこもりの増加の原因となっていると考えられる. この様な背景から, キャンプが注目され, キャンプ体験は児童期に重要とされる社会性の育成, 人間関係の構築に有効だと報告されている(山脇, 2011). その中でも筆者は, 「向社会的行動」に着目した. 「向社会的行動」とは, 一般的に思いやり行動と言われている. 人に生まれつき備わっている行動ではなく, 人が社会の中で育ち, 様々な人とのふれあいを体験するプロセスで次第に学習されていく行動である(祐宗, 1983). そこで本研究では, キャンプに参加した子ども達の向社会的行動の種類や特徴, またその関連性を明らかにすることを目的とした.

2. 研究方法

1) 調査対象

平成 25 年 8 月 21 日から 8 月 23 日の 2 泊 3 日の「サマーキャンプ 2013 年 集まれ!! 友達いっぱい〜一人ひとりが主人公キャンプ〜」に参加した O スポーツアカデミー所属の小学生 10 名を対象とした. プログラムでは, キャンプ生活の中で, 沢登りや琵琶湖での水遊びなど非日常的な体験を仲間と協力して達成することを目標に行った.

2) 調査方法

子ども達のキャンプ体験中の向社会的行動について調査するため, 保護者へのアンケート, スタッフによる観察調査, ふりかえりシートによる記述を行い, 質的研究方法の一つである修正版グラウンデッド・セオリーアプローチを参考に分析を行った.

3. 結果と考察

1) 向社会的行動の種類について

観察・記述調査の結果, 仲間と協力して助け合うべきという気持ちから見られた【コミュニティ意識】・高学年としての【責任感】・相手の気持ちへの【思いやり】・苦楽を分かち合う【共感】・他者からの承認や受容が重要である【承認指向】・自分がやりたいという【快楽主義的指向】の 6 つの向社会的行動がキャンプ中に見られることが明らかになった.

2) 向社会的行動と学年の関連性について

小学生低学年は, 相手に褒めてもらいたい気持ちや自分が率先してやりたい気持ちから行う向社会的行動が多い特徴が見られた. また, 仲間と協力をするべきだという規範意識や集団意識から行われる行動も多く見られた. 小学生高学年は, 相手の気持ちを共感して行われた向社会的行動が多く見られ, 特に小学 6 年生には, 責任感から行う向社会的行動が特徴的であった.

3) キャンプ体験と向社会的行動の関連性について

キャンプ中に見られた子ども達の向社会的行動

について概念図で示した(図 1). 組織キャンプでの沢登りや自然体験などの『冒険体験』では, 苦楽を分かち合う中で, みんなで達成したいという気持ちから, 全員が仲間のために応援や手助けをしている姿が見られ, 相手を【思いやる気持ち】や【共感】して行われる向社会的行動が特徴的であった. 食事作りやテント設営などの『生活体験』では, 低学年は【承認指向】や【快楽主義的指向】などの気持ちから行われる向社会的行動が多い特徴が見られ, 高学年は【責任感】などから向社会的行動が見られた. 【コミュニティ意識】から行われる向社会的行動については全員に見られた.

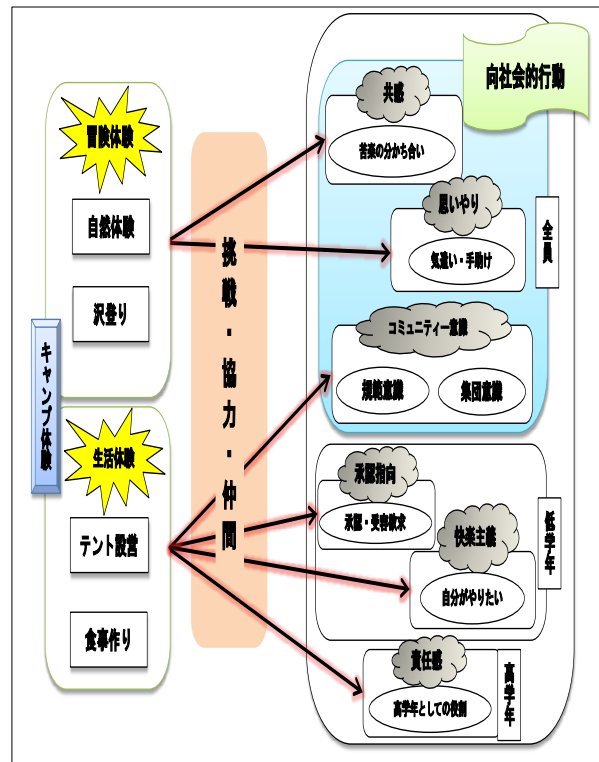


図 1: キャンプ中に見られた子ども達の向社会的行動の概念図

4. まとめ

本研究において, 組織キャンプにおける冒険体験と生活体験といった体験の特徴と, 向社会的行動の種類に関連があることが明らかとなった. 今後, 子ども達の向社会的行動をより育むために, 子ども達の成長段階や個性を考えたグループ分け, キャンププログラム構成や指導への配慮が必要である.

引用文献

- 1) 山脇あゆみ・遠藤浩(2011)組織キャンプにおける参加児童の社会的行動に関する研究. 野外教育研究, 14(2):pp. 1-12.
- 2) 祐宗省三(1983)思いやりの心を育てる. 有斐閣, 東京:pp48-49.